

令和4年度第1回南砺市総合公共交通計画等検討委員会 議事要旨

日時 令和4年8月8日(月) 14:00～15:45

場所 南砺市役所大ホール

出席者 委員 東京経済大学経営学部 教授 青木亮
(敬称略) 南砺市地域づくり協議会連合会 会長 松本久介
南砺市社会福祉協議会 理事 下崎富美子
南砺市老人クラブ連合会 副会長 中川澄枝
南砺市身体障害者協会 理事 高田美喜子
南砺市観光協会 専務理事 此尾治和
南砺市PTA連絡協議会 島田優平
加越能バス(株)自動車部 部長 清水浩二
砺波地区タクシー協議会 会長 余西孝之
富山県交通政策局交通戦略企画課 主幹 福田聡浩
富山県砺波土木センター 施設管理課 課長 宮嶋秀幸
南砺警察署地域交通課 係長 前田文彦
三和交通(株) 代表取締役 和田正志
富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長 石橋剛
公募委員 武田隆啓
公募委員 村上幸子
公募委員 佐竹弘昭
公募委員 水林義博
南砺市総合政策部 部長 川森純一
南砺市 副市長 齊藤宗人
地域包括医療ケア部地域包括ケア課 課長 松田哲也
ブランド戦略部交流観光まちづくり課 課長 大橋誠
教育委員会教育総務課 課長 氏家智伸
事務局 総合政策部政策推進課 課長 石崎修
総合政策部政策推進課 係長 林幸則
総合政策部政策推進課 主事 勇崎夏希

開 会

齊藤副市長 挨拶

青木会長 挨拶

以降、青木会長が議長となり議事を進行

協議事項（１）「令和４年度市営バスデマンド実証運行の実施について」

事務局から、令和４年度市営バスデマンド実証運行の実施計画を説明。

以下、質疑応答

委員) 10月から12月まで実証運行を行うとのことだが、住民説明会や会員登録など時間がないのではないかと。また、高校生の通学など鉄道駅へつなぐフィーダー交通を優先的に検討すべきでないか。仮に実証運行がうまくいったとして、翌年以降の計画も必要でないかと思う。

事務局) 実施まで時間がないことはご指摘のとおりであるが、地域づくり協議会や老人クラブなど、時間がない中でもしっかりと説明に回りながら実施していきたい。高校生の通学も重要であり、今年度高校生を対象に登下校の時間を聞き取るなどのアンケートを予定しており、加越線等のダイヤ改善など今後の取組を検討していきたい。

委員) 住民説明会の際には、鉄道や既存の路線バスへの接続に関してしっかりと説明してほしい。また、交流センターで実施されている高齢者サロン等での周知や、商業者と連携した利用促進に取り組んでほしい。

事務局) 高齢者サロンの送迎も担えないかなど、様々な利用促進を検討していきたい。

会長) 高岡や砺波へはバス等に乗り継ぐ必要があると思うので、どこで乗り換えるなど、説明会で丁寧に説明してほしい。利用者は乗り継ぎの場所が分からないと思う。

令和４年度市営バスデマンド実証運行の実施について、会長から委員が合意したことの確認がとられた。

報告事項（１）「南砺市地域公共交通計画の素案作成について」

事務局から、南砺市地域公共交通計画の素案作成について説明。

以下、質疑応答

委員) 国、県の計画と連動して、計画を策定していただきたい。

事務局) 県の方でも計画を作っているということで、情報収集にも努めながら、国県の方針も注視しつつ次期計画の策定に取り組んでいきたいと考えている。

委員) 県では今年度計画策定に着手しており、今年度はデータ収集のほか、利便性の高い交通について県、交通事業者、市町村でどういった形のあり方ができるのかといったことを議論している。JR城端線に関しては先進的に議論をしておられて、計画にはそういった内容も入ってくると考える。デマンド実証運行については、どのように次のステップ

につなげていくかを念頭に取り組んでいただきたい。また、高校生の通学について、鉄道やバスの利用が増えるような取組を検討していただきたい。

事務局) デマンドについてはアンケート等の結果も踏まえながら、サービスの内容を改善していく必要があると考えている。また、公共交通の利用促進については、過度に自家用車に依存した生活が少しでも転換されるよう取り組んでいきたい。

会 長) 次に、MaaS による情報提供に関しては、富山大学の協力が得られるのであれば、プラットフォームを作成することは可能であり、計画の目標達成に向けて取り組めるのではないかと考えている。また、アプリを構築してそれに伴って新たな課題が出てくれば、次の計画で検討することとなる。

報告事項（２）「公共交通の利用促進、利用啓発の取組について」

事務局から、公共交通の利用促進、利用啓発の取組について説明。

質疑なし。

報告事項（３）「令和３年度南砺市営バスの利用状況について」、（４）「令和３年度南砺金沢線の利用状況について」

事務局から、令和３年度南砺市営バスおよび南砺金沢線の利用状況について説明。

以下、質疑応答

会 長) 南砺金沢線の定期と定期外の比率は把握しているか。

事務局) 手元にデータを持っていないが、普通運賃の利用が減少し、他の路線でも同様の傾向があると考えている。生活上必要な利用はされているが、観光目的の利用がなくなっている状況にある。

会 長) 先ほど高校生の通学について話があったが、自家用車で送迎する習慣になってしまうとこれを変えるのは難しい。バスや電車で通学してもらえよう、入学直前にいかに説明するかが大事である。

委 員) 新学期には学校に伺って、バスや定期券の案内をさせていただいている。１校で定期券購入者が１８名にとどまった例もあり、通学に公共交通を利用する思いが薄く、家族の送迎に頼ることが多いと感じている。南砺金沢線については、本年４月から６月は平成３０年度に迫る勢いで、月に３０００人以上の方にご利用いただいている。

会 長) 審議事項は以上だが、その他の事項でご意見は。

委 員) 安居循環線の利用者が増えている要因は。

事務局) 一部の便で福野小学校のスクールバスを兼ねており、各年の児童の利用状況により増減している。

委員) デマンドの実証運行に関して、タクシー事業者が予約を受け付けるためだけに新たに雇用することも難しく、実施にあたってタクシー事業者に全て任せるのはうまくいかない。システムを導入するからと簡単に考えるのは大きな間違いである。散居村でのデマンドの必要性は認めるが、タクシーが自宅近くから送迎することになると利用が増え、市の負担が増えることに市民の理解が得られるか。市全域に広げていくときにどうあるべきかをイメージして取り組んでいただきたい。

委員) P T Aという立場でお話しすると、子どもの移動が一番の課題となっている。色々取り組んでいる中で、実証だけでなく継続していかないと、中々認知されて課題の解決につながらないと感じている。デマンドはモデル事業だけで終わらないように、しっかり検証していくことが重要である。また、私の所属している団体が富山県の中山間地域買物弱者対策モデル事業で、お年寄り等の買物支援の取組を実施することとしており、市と情報を共有していきたい。

閉 会